

■成分 カルシウム(CaOとして13%) [内 有機酸カルシウム:6%、塩化カルシウム:7%]
 ■性状 淡褐色液体、PH:6.1(500倍希釈液)、比重:1.24

使用方法 使用濃度500~1,000倍 散布液量は一般農薬と同一

対象作物名	肥効	散布適期および使用方法
カンキツ類	果皮強化、水腐れ軽減、裂果軽減、浮皮軽減、新梢充実	①新梢伸長期から10日間隔で3回散布②養分転換期から10日間隔で3回散布③着色始めから10日間隔で3回散布
りんご	ビターピットの予防、コルクスポットの予防、油上がり軽減	①落花20日後から10日間隔で3回散布②8月中・下旬から10日間隔で3回散布
なし	みつ症(水浸果)軽減、ていあ部の亀裂(尻割れ果)軽減、コルクスポット・石ナシ果予防、ユズ肌症軽減、新梢の充実	①落花20日後から10日間隔で3回散布②果実肥大始めから2~3回散布③新高は8月下旬に更に1回散布する
ぶどう	新葉・新梢の充実、新葉葉縁の葉焼け症軽減	新梢伸長期から10~14日間隔で3回散布
かき	うるみ果の軽減	①新梢伸長期から10日間隔で3回散布 ②幼果期から1ヶ月間隔で2~3回散布
おうとう	うるみ果の軽減、硬度維持	満開10日後より10日間隔で3回散布
びわ	裂果症の予防、そばかす症の予防	幼果期から10~14日間隔で3回散布
トマト	尻腐れ果・新葉黄化の予防	各花房の開花初期ごとに、花房、新葉、生長点によくかかるように散布
ピーマン		開花期~収穫期まで10~14日間隔で散布
白菜・キャベツ レタス	芯腐れ症・縁腐れ症の予防	定植後から結球始めまでに新葉、結球部によくかかるように3~4回散布
たまねぎ	芯腐れ症の予防	倒伏期までに7~10日間隔で3~4回散布
いちご	チップバーンの予防、果実硬度の向上	定植後、新葉展開期及び各花房の開花初期ごとに3~4回散布
ばれいしょ	生育増進、倒伏防止、イモの肥大、品質向上(デンプン含有の増加)	開花期を中心に7~10日間隔で3回散布
さつまいも	つるぼけ防止、品質向上	6~7月に2~3回散布
セルリー	芯腐れ症の予防	生育期に3~4回散布
しゅんぎく	芯枯れ症の予防	
ききょう トルコギキョウ	葉先枯れ症の予防	

その他のカルシウム欠乏症
 ●メロン(発酵果、変形果) ●すいか(変形果) ●なす(葉縁の黄化、がく割れ果) ●きゅうり(落下傘葉、クビレ果、葉縁の黄化)
 ●はなやさい(新葉の先枯れ症) ●だいこん・かぶ(芯ぐされ、葉縁の黄化) ●サトイモ(芽つぶれ症) ●そらまめ(種子腐敗)
 ●てんさい(芯焼け症) ●チューリップ(首折れ曲り) ●もも(みつ症)

⚠ 注意事項

- 原料由来の天然成分が浮遊・沈殿することがあります。品質・成分が変わりありませんので、よく振ってから使用してください。
- 酸性の液体なので皮膚に付着しないように注意し、万一付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落としてください。
- 酸性の液体なので眼に入らないように注意し、万一眼に入った場合は直ちに15分以上洗眼し、医師の手当てを受けてください。
- 誤飲した時は多量の水を飲ませ吐かせ、直ちに医師の手当てを受けてください。
- 夏の日中を避け、朝夕の涼しい時に散布してください。
- 農薬を混用する場合は本剤を希釈してから農薬を添加してください。
- 本剤には展着剤は含まれておりません。
- カルシウム欠乏症が発現した細胞は回復しませんので、手遅れにならないように早めに散布してください。
- 欠乏症が出やすい果実、新葉、生長点、結球部によくかかるように十分量散布してください。
- 「石灰硫黄合剤」と混合すると、有毒ガスが発生する恐れがあり、危険ですから混用は行わないでください。

保管: 密封し、直射日光をさけ、食品と区別して、小児の手の届かない、冷蔵・乾燥した場所に保管してください。

使用量に合わせ薬液を調製し、使い切ってください。空びんは圃場などに放置せず、適切に処理してください。

- 使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●本剤は小児の手の届く所には置かないでください。

販売元  **株式会社ニッソーグリーン**
 東京都台東区上野3-1-2(秋葉原新高第一生命ビル5F)
 〒110-0005 Tel.03-5816-4351
<http://www.ns-green.com/>

取扱店

包装
1ℓ×12
10ℓ×2

 **株式会社ニッソーグリーン**

野菜・果物・花等の
 カルシウム欠乏症予防に!



液状カルシウム肥料

アグリメイト®

使いやすい液状タイプ
 カルシウム(CaO)含有率 **13%**
業界初



天然物由来の有機酸キレートカルシウムで植物体内の高い移行性を実現！

特長

- ① 有機酸キレートカルシウムは、りん酸イオンと結合しない為、植物全体で吸収した多くのカルシウムは生長点へスムーズに移行します。
- ② 細胞分裂時の細胞壁の形成が順調に行われ、新葉、新根、果実の生長が活発となります。また、細胞自体が強化されるので、品質、日持ちが向上します。
- ③ 窒素成分を含まないので、生殖成長期にも安心して使用できます。
- ④ 希釈しやすい液状タイプです。



アグリメイトの有機酸キレートカルシウムについて

有名な有機酸のキレート剤として、合成物のエチレンジアミン四酢酸 (EDTA) がありますが、微生物分解性が無く、ヨーロッパでは使用規制されています。EDTAは、分子中にカルシウムなどの金属イオンと結合できる手 (配位子) を6個有し、これらが包み込むようにカルシウムを強く抱き込んでしまうため、カルシウムの放出がスムーズではありません。

一方、アグリメイトは天然物由来の有機酸カルシウムが成分です。その中で強いキレート作用を持っているグルコン酸は、ハチミツ・ローヤルゼリー・ワインや醸造酢などに多く含まれている有機酸です。グルコン酸の特徴は、周囲にある水分子とネットワークを作り、グルコン酸1分子で数個のカルシウムを間接的に繋ぎ止めています。したがって、キレートしたカルシウムの放出もスムーズであるといわれています。

カルシウム欠乏症について

カルシウムは植物組織中の細胞壁の形成に不可欠で、細胞と細胞をつなげているペクチン酸と結合して組織を強化するのに役立っています。

カルシウムが欠乏すると、細胞壁が形成されず、細胞の増殖が起こらないため、細胞の崩壊・壊死を生じます。

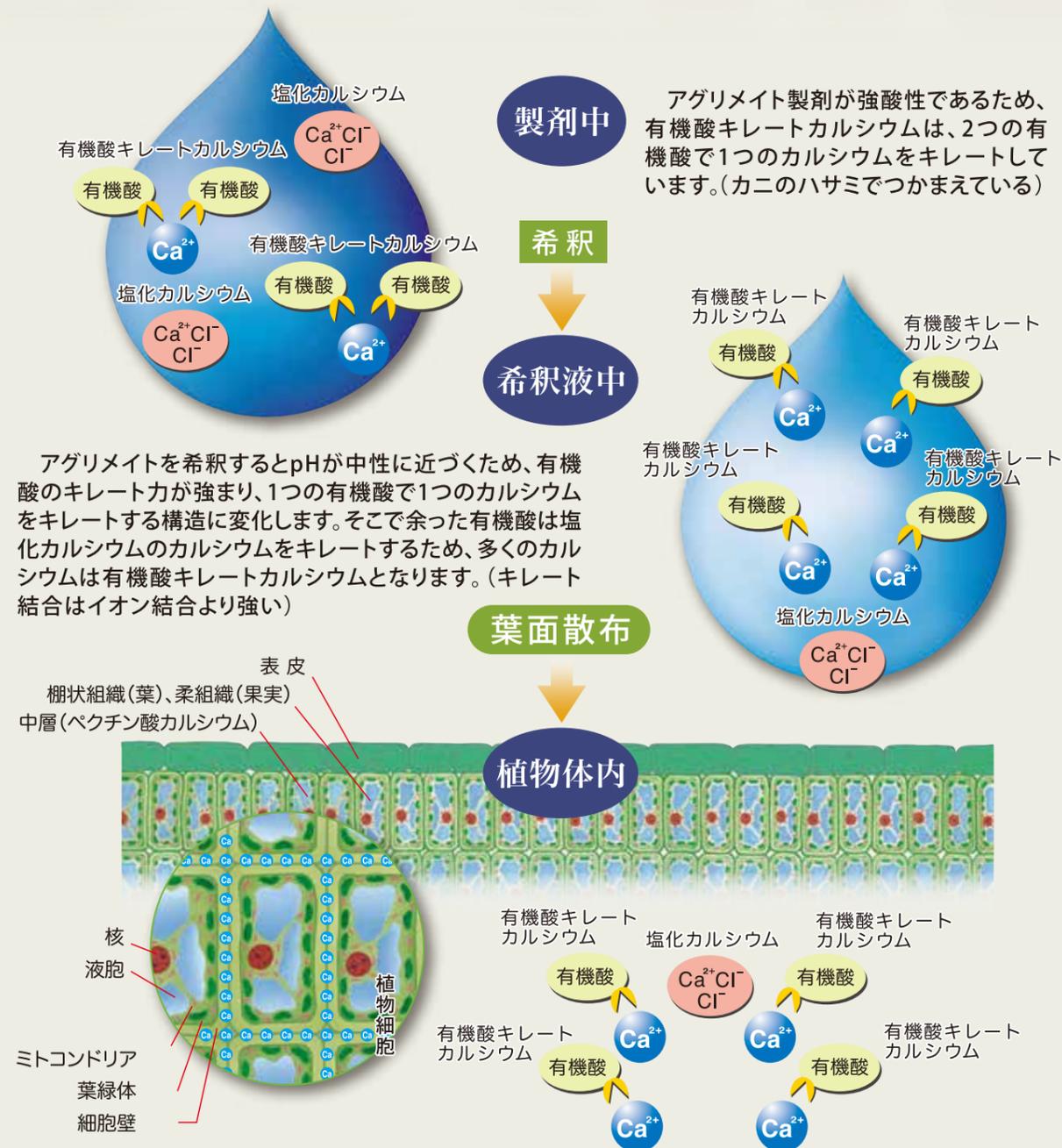
特に、細胞分裂の活発な新根・新葉・果実に発現しやすいといわれています。

カルシウムは主に根の先端部分で吸収されますが、植物体内を移動しにくく、古い組織からの再転流・補給はほとんどありません。一方、カルシウム欠乏により壊死した細胞は回復しません。

カルシウム欠乏症の出やすい作物は、早い時期から生長部位を中心に「アグリメイト」を予防的に葉面散布し、カルシウムが不足しないように常に補給する必要があります。

アグリメイトの優れた効果の秘密

アグリメイトには、有機酸カルシウム (グルコン酸カルシウム、乳酸カルシウム) と塩化カルシウムが約半分ずつ含まれています。散布時に本剤を希釈することで、多くのカルシウムは有機酸キレートカルシウムになり、植物体内を移行します。



カルシウムは新葉・新根・幼果の生長点での細胞分裂時の細胞壁の形成に不可欠です。また、細胞を強化します。

アグリメイトは多くのカルシウムが、有機酸キレートカルシウムとして植物体内に吸収されます。有機酸キレートカルシウムは、りん酸イオンと結合しないため、移行することができます。従って、アグリメイトは多くのカルシウムを植物全体から生長点へスムーズに移行させることができます。塩化カルシウム、硝酸カルシウム等は、植物体内に吸収後りん酸イオンと結合し、不溶性のりん酸カルシウムとなるため移行できません。